

山梨県甲府市方言

吉田 雅子

項目		基本情報
話者 情報	生年	1968年
	生育地	山梨県甲府市
	性別	女
	補足情報	
解説	概要	<p>山梨県甲府市方言は、東条操の方言区画においては東海東山方言の長野・山梨・静岡方言に属し、山梨県内の方言区画としては山梨西部方言となる。山梨西部方言はさらに①峡北（きょうほく）方言、②峡南（きょうなん）方言、③峡東（きょうとう）方言、④峡西（きょうさい）方言、⑤峡中（きょうちゅう）方言の5つに小区画され、甲府市方言は⑤峡中方言にあたる。かつてより甲府は山梨（甲斐）の中心地であり、県内では甲府のことばは規範的なことばと意識されてきた。</p> <p>甲府市は南北に細長い形をしており、市内も北部は長野県境に接した山間地、中部は市外中心地で昔の城下町、南部は甲府盆地中央部の農地も多いところ、というようにさらに三区分できる。『甲府市史』の「方言」項では、北部を「市の中で、より古いことばの姿を残すと思われるところ」、中部を「市域中最も洗練されたことばを使うところ」、南部を「市の中心部では消えかかっている語が現存しているところ」のように記述している。話者の生育地は甲府市北部にあたる。</p> <p>参考文献 稲垣正幸・清水茂夫・日向敏彦（1988）「方言」『甲府市史 別編 I 民俗』（第四章言語生活 第四節）甲府市役所</p>
	表記	<p>全体の記述方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガ行鼻濁音は半濁点を付けて示した。山梨県甲府市方言にはガ行鼻濁音があり、出現しうる場合は示した。 ●方言形があるものは使って示した。伝統方言形寄りの表現になっている。 ●文法情報に主眼を置いて作成した。語彙はここに挙げた他にも伝統的俚言形がある。 ●方言訳2は、方言訳1が例文と構文が変わる場合共通語例文にできるだけそぐう訳や、方言訳1とは別の語彙を使っの訳、を示した。
	文法概説	<ul style="list-style-type: none"> ・否定辞にはんを用い（例文11,12,13,14,22,23,31,46）、意志表現や推量表現にはズ、ザー、ズラの類を用いる（例文7,8,15,29,37,39,41,48,49）ところに東海東山方言らしさが表れている。山梨東部方言が否定にナイ、意志や推量にペーを用い関東方言らしさが表れるのと対照的な部分である。 ・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県的に助詞が前接語に融合する現象が見られる。奈良田方言は音声融合がやや少ない。 ・世代差が指摘できる事項には以下のようなものがある。動詞「来る」は意志形でコズとキズ、コザーとキザーがある（例文41）が、キ音になる上一段化語形は高年層に見られる。ズによる表現自体がすでに一部の高年層が使うものになっている。ザーによる表現は中年層までは多用するが若年層ほど使用が少ない傾向がある。このザーはザダ行音交替のためコダー、ヤラダー（例文7）、イカダー（例文39）のようにダーとなることが見受けられる。過去のトー（例文3,4,10,16,17,18,19,25,28,30,32,33,36,42,45,46,47,50）は高年層に使用が多い。可能表現ではいわゆる「レ足す」（例文20,21,22,23,32,34）があるがこれも語によっては高年層ほど積極的に使用している。推量表現も過去推量のツラは高年層が使用するが、ズラヤラによる表現は若年層にも使用が多い。仮定のヤスイジャなどジャ（ー）による表現（例文29,32,39,45,46）、アルイチョ（例文6）のようなチョによる禁止表現などは、全世代でよく使用されている。

〔基本例文50〕 山梨県甲府市方言記

方言記1 (もっともよく使う表現)	方言記2 (使うこともある表現)	備考・コメント
1 イマ(ッ)カラ トモダチニ テカ° ミヨー カク。		<p>全体の記述方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガ行鼻濁音は半濁点を付けて示した。山梨県甲府市方言にはガ行鼻濁音があり、出現しうる場合は示した。 ●方言形があるものは使って示した。伝統方言形寄りの表現になっている。 ●文法情報に主眼をおいて作成した。語彙はここに挙げた他にも伝統的俚言形がある。 ●方言記2は、方言記1が例文と構文が変わる場合共通語例文にできるだけそっくり訳や、方言記1とは別の語彙を使つての訳、を示した。 <p>・助詞「を」が前接語に融合する現象は、甲府市方言に限らず全県的に見られる。奈良田方言は音声融合がやや少ない。</p>
2 フデデ テカ° ミヨー カク シモ イル。		<p>・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。</p>
3 ウチ {ン/ー} ケーッテ スク° テカ° ミヨー カイトー。	ウチ {ン/ー} ケーッテ スク° ニ テカ° ミヨー カイトー。	<p>・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。</p> <p>・過去の「た」がトーとなる。</p> <p>・スク° ニも使うがスク° のほうが多いと思われる。</p>
4 カイトー テカ° ミヨー イクドモ ヨミケース。		<p>・3と同様、過去の「た」がトーとなる。</p> <p>・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。</p>
5 ヨル ジュージン ナッタラ スク° ネロシ。	ヨルワ ジュージン ナッタラ スク° ネロシ。	<p>・ヨルワも使うが「夜10時に」にあたるワのない言い方のほうが多いと思われる。</p> <p>・命令形に助詞のシが付く。音調により、強めや、やわらげの意味合いになる。</p>
6 アブネーカラ シャドーオ アルイチョ。		<p>・禁止表現には「て」に続く動詞連用形+「チョ」の形を用いる。チョは古典語の禁止表現「な-そ」に由来する。</p>
7 コノ ホンワ タローニ {ヤラズ/ヤラザー/ヤラダー/ヤルジャン}。		<p>・意志表現にはズ、ザー(ダー)、ジャンを用いる。現在はジャンの使用が最も多く、ズの使用は高年層が主である。</p>
8 ヒル(ッ)カラ アメズラ。	ヒル(ッ)カラ アメカ° フルラ。	<p>・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県的に推量辞にラ、ズラを用いる。</p>
9 ハルン ナリヤー ハナ {ン/ー} サク。		<p>・1と同様、助詞「に」が前接語に融合している。</p> <p>・甲府市方言を含む山梨西部方言と、山梨東部方言では、条件表現では動詞工段形に「ば」が付いて融合したナリヤーのような形が用いられやすい。</p> <p>・助詞「に」が前接語に融合する現象は、甲府市方言に限らず全県的に見られる。奈良田方言は音声融合がやや少ない。</p>

10	ハナコカ° マドー アケタラ ムシ {ン /ー} ヘーッテ キトー。		・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。 ・9と同様、助詞「が」が前接語に融合している。 ・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
11	アサワ アンマシ テレビョー ミン。		・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。 ・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはんが用いられやすい。
12	ハナコワ ソンネナ バンク° ミナン ミン。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、取り立て否定表現にもミンがそぐう。
13	ハナコワ キノー テレビョー {ミン カットー/ミナンダ}。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはんが用いられやすい。ミナンダは古形。 ・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
14	ハナコワ テレビョー {ミンデ/ミネーデ} ホン {バ(ッ)カ/バ(ッ)カシ} {ヨンデ(ー)ル/ヨム}。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはんが用いられやすい。 ・14と24と25を比べると、習慣ではヨンデ(ー)ルの他にヨムが使われる。
15	テレビョー ミチョバ コノ シコ° ター キョージューニ {オエタラ/オエツラ/スندگان}。	テレビョー ミチョバ コノ シコ° ター キョージューニ {オワツタラ(ヨ)/オワツツラ(ヨ)}。	・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県的に推量辞にラ、ズラを用いる。過去推量表現にツラを使うのは古形。 ・「終わる」よりも「終える/済む」の方が多いと思われる。
16	ネツー ダシトー ボコニ クスリョー {ノマシトー/ノマセトー}。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・1と同様、助詞「を」が前接語に融合している。
17	オカーサンカ° イモート {ー/オ} オツカイニ ヤットー。	オカーサンカ° イモート {ー/ニ} オツカイニ {イカシトー/イカセトー}。	・方言訳2で「イモートニ」と二格を取ると、たくさんいる人のうち妹を選んだという取り立ての意味合いになる。 ・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・「お母さん」にあたる俚言形は多いがここでは省略する。
18	オトートト ケンカシテ ワタシ {ダケ/バ(ッ)カ/バ(ッ)カシ} オトーサンニ {オコラレトー/ヨマーレトー}。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・「お父さん」にあたる俚言形は多いがここでは省略する。
19	ルスチュー(ニ) ドロボー {カ° /ン} ヘーットー。	ルスチュー(ニ) ドロボーニ ヘーラレトー。	・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
20	コノ ボコワ マダ チッコイケンド ムズカシー カンジカ° {カケル/カケレル}。		・カケレルのように、可能動詞形にレを加えた「レ足す」の使用がある。
21	キョーワ ジカンカ° アル {カラ/ンデ/デ} ユックリ テカ° ミカ° {カケル/カケレル}。		・20と同様、可能表現に「レ足す」の使用がある。

22	コノ ボコワ マダ チッコイ {カラ／ンデ／デ} ヒラカ° ナシカ {カケレン／カケン／カケネー}。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはンが用いられやすい。 ・22と23を比べると、カケンとカケレンとどちらも使えるが、能力不可能の方がカケレンを使いやすい。能力可能と状況可能よりも、能力不可能と状況不可能の方が語形を使い分けようと思う。
23	ツクエカ° {ネーカラ／ナインデ／ナイデ} ジカ° {キチント／チャント} {カケン／カケレン／カケネー}。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはンが用いられやすい。 ・22と23を比べると、カケンとカケレンとどちらも使えるが、状況不可能の方がカケレンを使いやすい。能力可能と状況可能よりも、能力不可能と状況不可能の方が語形を使い分けようと思う。
24	タローワ イマ トナリン ヘヤデ ホンオ ヨンデ (ー) ル。		・14と24と25を比べると、進行ではヨムは出ない。
25	タローワ ハナコ {ニ／カラ} カリトーホンオ ヘー サイコ° マデ {ヨンデ (ー) ル／ヨンドー／ヨンダ}。		・14と24と25を比べると、結果ではヨンデ (ー) ルの他にヨンドー、ヨンダが使われる。 ・3と同様、過去のトーであるが、撥音に続く場合はドーとなる。
26	マツト シズカノ {トコロ／バシヨ} デネタイ。		
27	ユーヤケデ ソラン アケー。		
28	ボコノ ジブンワ ヒトリデ ベンジョニイクカ° スケ° ー コワカッター。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・「とても」にあたる俚言形は多いがここでは省略する。
29	ウドンヤ ソバジャ (ー) ヤスイラ。		・仮定の「なら」がジャーとなる。 ・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県的に推量辞にラ、ズラを用いる。
30	フルホンヤカ° ホンオ タカク カイトツテ クレトー。	フルホンヤニ ホンオ タカクカイトツテ モラットー。	・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
31	テンキカ° {ワルクテ／ワリーカラ} ダレモ {コン／コネー}。		・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはンが用いられやすい。
32	マツト {ヤスケリヤ (ー)／ヤスケロバ／ヤスイジャ} {カエタニ／カエレタニ／カエトーニ}。		・29と同様、仮定の「なら」がジャーとなる。 ・20と同様、可能表現に「し足す」の使用がある。 ・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
33	ヒトリデ {アスピー／アソビー} {イッテモ／イッタツテ／イットーツテ} {タノシク ネー／タノシクナンネー}。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・タノシクナン ネーは「楽しくなんてない」の意。「楽しくならない」ではない。

34	テンキ{サエ/セー/カ° } ヨク ナ リヤー デカケレル。		・テンキカ° のように助詞「が」を用い その文節を強調して発音することで極限を 表すことも多い。 ・甲府市方言を含む山梨西部方言と、山梨 東部方言では、条件表現では動詞工段形に 「ば」が付いて融合したナリヤーのような 形が用いられやすい。 ・20と同様、可能表現に「レ足す」の使 用がある。
35	タローワ マダ チューカ° クセー ドー。		
36	ボコノ シブンワ センエンデモ タイキ ンダットー。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
37	コリヤ (-) ドロポーノ アシアトズ ラ。		・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県 的に推量辞にラ、ズラを用いる。
38	ソリヤ (-) ワタシ {ノ/ン} カサデ アリヤ (-) センセー {ノ/ン} カサ ドー。		
39	モシ アシタ イー テンキジャー {ボ コタチョー/ボコントー} ツレテ ドッカ {イカズ/イカザー/イカダー/イクジャ ン}。		・29と同様、仮定の「なら」がジャーと なる。 ・意志表現にはズ、ザー (ダー), ジャン を用いる。現在はジャンの使用が最も多 く、ズの使用は高年層が主である。
40	コノ カサト クツワ ワタシノージャ ネー。		・名詞代用形式「の」はノーとなる。この ノーに続く「では」相当のジャは 「ジャー」と長音化することが少ない。
41	A : アシタモ コケー クル (ケ) ? B : ウン クル。	A : アシタモ コケー クル (ケ) ? B : ウン {コズト/コヨー ト} {オモッテルヨ/オモー ヨ}。	・意志表現にはズ、ザー (ダー), ジャン を用いる。現在はジャンの使用が最も多 く、ズの使用は高年層が主である。
42	A : ドーイデ コンデ (-) ? クルッテ {イッタ/イットー} ジャン (ケ)。 B : ゴメン。チット グアイ {ン/カ° } ワリーダ。		・3と同様、過去の「た」がトーとなる。
43	A : {アスコ/アッコ} ニ イルワ タ ロー (ケ) ? B : イヤ タロージャ (-) ナクテ ジ ロージャ (-) ネー (ケ) ?		
44	A : ドレカ° オマンノ カサ {-/デ (-) } ? B : コレカ° ワタシノ カサドー。		

<p>45 A : コノ ホン ヨムジャ (ー) カスヨ。 B : ソノ ホンナラ ヘー ヨンドー。</p>	<p>A : コノ ホン ヨムジャ (ー) カシテ ヤルヨ。 B : ソノ ホンナラ ヘー ヨンジマッー。</p>	<p>・29と同様、仮定の「なら」がジャーとなる。Bで「本なら」がホンジャーとならないのは、ジャーが「(の)では」由来で、「その本では～」にあたらないためである。 ・「てやる」相当を使わないカス、「てしまった」相当を使わないヨンドーのほうが多いと思われる。 ・ヨンドーは、過去のトーが撥音に続いてドーとなった例である。</p>
<p>46 A : トナリノ イエニ ドロボーカ° {ヘーッタダト/ヘーッタト/ヘーッーダト}。 B : ヘ {ホントケ/フントケ} ? トナリ {ー/ン} {ヘーッタジャ (ー) /ヘーッージャ (ー)} ウチモ キ {ー/オ} {ツケント/ツケネーナランヨ}。</p>	<p>A : トナリノ イエニ ドロボーカ° {ヘーッタダト/ヘーッタト/ヘーッーダト}。 B : ヘ ソウケ? トナリ {ー/ン} {ヘーッタジャ (ー) /ヘーッージャ (ー)} ウチモ キ {ー/オ} {ツケント/ツケネーナランヨ}。</p>	<p>・3と同様、過去の「た」がトーとなる。 ・伝聞「って」相当が後接する場合トーは使わない。*ヘーッート ・29と同様、仮定の「なら」がジャーとなる。 ・甲府市方言を含む山梨西部方言では、否定形にはンが用いられやすい。</p>
<p>47 A : アメン フリソーダカラ マドー シメトイテクリョー。 B : ヘー {シメトー/シメタヨ}。</p>	<p>A : アメン フリソーダカラ マドー シメトイテクリョー。 B : ヘー シメテ アルヨ。</p>	<p>・「である」は「た」形で表すことが多い。3と同様、過去の「た」がトーとなる。</p>
<p>48 A : ソバ (ー) クイ (ー) {イカザー/イカダー/イッチャー/イクジャン}。 B : ソバ {ヨカ/ヨリカ} ウドン (ノホー) カ° イーナ。</p>	<p>A : ソバ (ー) クイ (ー) イカズ。 B : ソバ {ヨカ/ヨリカ} ウドン (ノホー) カ° イーナ。</p>	<p>・意志表現にはズ、ザー (ダー) , ジャンを用いる。現在はジャンの使用が最も多く、ズの使用は高年層が主である。 ・イカズは使えるが、古形であり、勧誘表現よりは意志表現にそぐう。</p>
<p>49 A : イロハシヨデンツチャー ホンヤカ°ドケー アルカ シラン (ケ) ? B : シッテ (ー) ルヨ。ムコーニ カンバンカ° メールラ?</p>		<p>・山梨方言では、甲府市方言に限らず全県的に推量辞にラ、ズラを用いる。</p>
<p>50 A : [ミズシンケ° ンモチ] ッテ クットー コン アル (ケ) ? B : オー アリヤ フントニ ウメー。</p>		<p>・[ミズシンケ° ンモチ] (水信玄餅) は季節限定の和菓子で、2015年頃にできた新製品。山梨の「ほうとう」は山梨方言を使う人はほぼ食べたことがあると思われるので、文意にそぐうものとして水信玄餅にした。 ・3と同様、過去の「た」がトーとなる。</p>